

いつだって好奇心 手を伸ばせばそこに本

子どもの読書活動

学校・園の取り組みを紹介します③

圏社会教育課 ☎・☎(582)1142 FAX(581)2733

市立図書館

「おはなし会毎日やっています」

毎日午後3時からおはなし会を開催しています。約30人のボランティアと図書館司書が交代で絵本を読んでいます。日によって選ぶ本もさまざまで、毎日参加しても新しい絵本との出会いがあります。また同じ絵本でも、読み手が変わると雰囲気が変わり何度でも楽しめます。

平日は小さい赤ちゃん連れのお母さんが一緒に参加してくれたり、土日は小学生のお兄ちゃんお姉ちゃんがまじったりと、たくさん子どもたちでにぎわっています。

場所は本の森1階にあるおはなしのいえです。カーペット敷きなので、靴を脱いでゆったりと過ごすことができます。ぜひご参加ください。



教育研究所

幼児教育研修講座「絵本はこころのミルク」

市内教育関係者を対象に、守山市立図書館の参与である三田村悦子さんを講師としてお招きし、幼児期における絵本の読み聞かせについて研修を行いました。

子どもは絵本の読み聞かせを通して言葉を豊かにし、想像力を養うので、子どもが読んでほしいという絵本は字が読めるようになっても何度でも読んであげること、素直に飾り気なく心を込めて読んであげることなど、大人が絵本の読み聞かせで注意すべき点を教えていただきました。また、よい



絵本の選び方や持ち方、見せ方、めくり方など、子どもが絵本の世界に入り込むための工夫も具体的に学びました。



佐川美術館
アートコラム③

半毛布に隠された日本人的美意識

学芸員・相田莉央
佐川美術館



日本人はかつてキモノを日常的に着てきましたが、現代では一般的にキモノという七五三や成人式卒業式など人生の重要な節目に着る、いわば晴れ着としてのイメージのほが強いのではないのでしょうか。私たちが普段着ている洋服は、本来は立体的な造形美を追求した西洋的スタイルの衣服ですが、今回のコラムでは平面的な美を追求したキモノからみる、日本人の美意識についてお話しします。

女性のキモノで多く使われている柄は花柄ですが、その理由はなぜでしょうか。ひとつは、シンプルにその花が綺麗であり、吉祥をあらわすめでたい意味合いのものが含まれているからです。

もうひとつは、花には季節感があるからです。日本人は花など植物の名前を聞くと、必ずその季節を連想します。日本では古来より四季の移ろいを生活の基準としてきました。季節を花に例え、自らの装いに取り込むことで四季の移ろいを味わい、それを美ととらえました。

平安時代の貴族の女性が着用した十二単でも、いかに季節に合わせた色の組み合わせでキモノを着るかによって、平安王朝の姫君のセンスが問われたといえます。

キモノは、日本人の美意識が反映されたデザインに溢れているといっても良いでしょう。

佐川美術館では茶会のイベントを開催し、スタッフでキモノを装い、「おもてなし」に務めています。茶会で礼装とされているのは無地のキモノですが、女性の帯などに花柄を見つけることができます。